

令和4年度

東北公益文科大学 地域共創センター事業報告



目次

<ページ>

令和4年度地域共創センターの活動	1
地域共創センター状況	4
事業報告書（ヒアリング及びマッチング事業）	6
（公益教養プログラム FORUM21）	10
（教養講座共創カフェ）	17
（学生活動支援）	20
（サービスラーニング支援事業）	24
（地方創生に向けた人材育成事業「ハタラクカタチ」）	27
受託事業・補助事業の報告	28
発行物のご案内	30
新聞記事	31

令和4年度地域共創センターの事業は
庄内開発協議会「公益のふるさとづくり活動補助金」
の助成を受けて行いました

令和4年度 地域共創センター事業の概要

地域共創センター

センター長	吉村 昇
地域連携部会長	澤邊 みさ子
産学連携部会長	小野 敦
ブランディング部会	広瀬 雄二
防災・環境部会	呉 尚浩

(1) 地域共創センターの役割

令和2年度より地域共創センターの事業を更に拡大し、以下の4部会で活動している。

①地域連携部会

地域との共創の仕組み及び活動のノウハウを生かし、庄内の地域共創の拠点として、社会・地域課題の解決に取り組む。

②防災・環境部会

自治体、地域住民とともに、環境・防災教育の充実を図る。

③産学連携部会

大学と外部機関とのパートナー関係を構築し、産学官連携を推進する。

④ブランディング部会

地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みを継続的に推進する。

(2) 地域連携部会の各種事業

①ヒアリングおよびマッチング事業

ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行った。令和4年度は75件の依頼を受け付けた。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び地域連携部会員が実施、協力を行った。

②「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」、「地域連携シンポジウム」等各種シンポジウムの開催

教職員、学生を対象に企画募集を行い、地域共創センター運営委員会での協議の上、令和4年度は「公益教養プログラム FORUM21」を6回開催した。また、学生主体で運営を行った「共創カフェ」を2回開催した。また、令和4年度の新規事業として、「地域連携シンポジウム」を1回開催した。

③「学生活動支援学生活動支援助成金」、「まちづくりインターンシップ補助金」、「災害復興・地域防災活動支援助成金」の運営事業

「本学の活性化を目的とした学生による自主活動及び学生と地域との地域協働によるまちづくり活動」、「学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）」等に関する申請に対し、

助成を行った。「Liga 食品ロス削減チーム」の“やまがた環境展（山形県主催）”への出展、「IVUSA」による庄内の海岸清掃活動など、3件の活動へ助成を行った。

④サービスラーニング支援事業

学生たちに地域で活動する力をつけてもらうため、また、庄内地域の魅力をもっと知ってもらう目的で、ANA SHONAI Blue Ambassadorの方々をお迎えしての講座を2回実施し、学びの場を提供した。

⑤地方創生にむけた人材育成事業

学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く先輩のライフスタイルを発信した。令和4年度は、8社を訪問しインタビュー取材を実施した。また、庄内地区商工会広域連携協議会との共催で、庄内地域における若者の定着に向けた産学連携事業として「地元企業（工場）見学会」を開催し、ツアー体験レポートを作成した。

記事をまとめ、冊子「ハタラクカタチ Vol. 4」を発行した。本学学生への配布だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。

⑤受託事業・補助事業

「ボランティアコーディネーション力3級検定業務（酒田市社会福祉協議会）」を受託した。また、補助事業として「地域共創による公益のふるさとづくり推進事業（庄内開発協議会）」の採択を受けた。

⑥学生及び大学の地域活動等に関する発信事業

地域共創センターで支援を行っている学生の地域貢献活動、「公益教養プログラム FORUM21」、「共創カフェ」、その他委託事業等に関する情報を随時、大学のホームページ、地域共創センターのFacebook、市報、山形県生涯学習センター「山形県生涯学習情報提供システム」等において発信し、積極的な発信を行った。令和4年度は印刷物として、冊子「ハタラクカタチ vol. 4」、「加' mon リーフレット」、「LiNK 自然環境サークルパンフレット」、「地域共創センターパンフレット」を発行した。また、「ビジネスマッチ東北」へ出展し、大学の教育研究成果を発信した。

(3) 産学連携部会の各種事業

①共同研究・受託研究の推進

産学連携を目指す研究分野の検討を行い、受託研究・共同研究の推進を行った。結果、受託研究3件、共同研究2件の協定を締結した。

(4) ブランディング部会

①地域に根差した研究ブランディング事業での取り組みの継続

本学では地域と関る様々な取り組みを進めているが、今年度特筆すべきは令和3年12月に締結した株式会社プロトソリューションとの包括連携協定に基づく鶴岡市朝日地区での地域課題解決のためのデジタルソリューションを開発する取り組みである。大学院

科目「プロジェクトa」と学部科目「情報システム」の履修者、プロトソリューションのメンバーが朝日各地区コミュニティセンターと協力しワークショップなどを展開し、開発中の情報システムを通じて広域の課題を共有するところまで進めることができた。引き続き、その課題共有意識を地域住民に広く伝える方策を構築する予定である。

②受託事業

「地域 IT 人材等育成事業（酒田市）」を受託し、過年度に続き4つの履修証明プログラム（「データサイエンスに係る講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）を開講した。「ITに関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内 IT 関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大生が IT を活用して地域課題解決に取り組むプログラム」、「公益大による IT を活用した地図コンテンツ作成」を加えて合わせて9事業を展開した。

(4) 防災・環境部会

①自治体、地域住民と連携した環境・防災教育の充実

イ 環境

県内外の大学生を対象に「海ごみ環境教育リーダー育成研修」を1回実施。昨年度にスタートした「RE:プロジェクト」（三川町中高生ボランティアサークル来夢来人、NPO団体、学生サークルと連携）において、鮭川村高校生ボランティアサークルSAKEKKO、全国川ごみネットワークとも連携範囲を広げ、鮭川村の鮭川流域におけるクリーンアップ活動を実施した。また、飛島クリーンアップ作戦20周年を記念して、鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会など複数団体と共催して「飛島クリーンアップ作戦2020記念フォーラム」をFORUM21として開催。その活動の歩みと成果を振り返りつつ、環境省や隠岐ジオパークからゲストを招き、今後のプラスチックごみ対策のビジョン、他地域から見た飛島クリーンアップ作戦の意義と評価について、講演やパネルディスカッションを行った。

ロ 防災

大学周辺地区（宮野浦学区）および飛島において、行政・専門家と連携しながら、防災・減災のあり方について、学習会と現地調査、報告会を実施した。宮野浦地区においては「逃げ地図」の手法を取り入れた避難のあり方の検討、飛島においては「次期山形県離島振興計画策定へ向けての提言書」を酒田市に提出した（東北公益文科大学・とびしま未来研究所、地域共創センター防災・環境部会、NPOパートナーシップ連名）。

令和4年度地域共創センター状況

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
1	5月18日(水)	13:10～ 14:55	公益教養プログラム FORUM21 人道危機・アフガン問題 -中村哲という生き方-	中研修室1	53
2	5月30日(月)	15:00～ 16:30	教養講座共創カフェ 新時代！ボードゲームのあり方！-繋いで広げる人との輪-	103 教室	8
2	6月10日(金)	15:15～ 16:45	サービスラーニング事業 マナーとおもてなしでもっとオモシロイ庄内に！	104 教室	25
2	7月15日(金)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2201 音声認識システムを使ってみよう！	オンライン	4
3	7月23日(土)	11:00～ 12:00	公益教養プログラム FORUM21 トビシマカンゾウとニッコウスゲ -DNA解析でわかった2種の関係-	中研修室1	40
4	7月23日(土)	13:30～ 16:45	飛鳥クリーンアップ作戦2020 記念フォーラム 鳥海山・飛鳥ジオパーク環境保全フォーラム	公益ホール	100
5	8月11日(木)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2202 音声合成システムを使ってみよう！	オンライン	3
6	8月12日(金)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2203 動画のLIVE配信をはじめよう！	オンライン	3
7	9月16日(金)	9:00～ 15:00	地元高校情報科生徒のメディア情報コース体験プログラム	中研修室1ほか	39
8	9月26日(月)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2204 コンパクトなPCサーバーを作ってみよう！	オンライン	2
9	10月27日(木)	12:30～ 13:05	2022年度長期語学留学報告会 -カナダ(リジャイナ大学)-	ファカルティ	14
10	11月8日(火)	18:30～ 20:00	SAKATA Tech Night #2205 皆既月食観察会	図書館3階 オンライン	42
11	11月10日(木)	10:00～ 17:00	ビジネスマッチ東北2022秋	夢メッセみやぎ	-
12	11月22日(火)	9:10～ 17:00	庄内地域における若者の定着に向けた産学連携事業 「地元企業見学会」(庄内地区商工会広域連携協議会との共催)	庄内エリア	9
13	12月8日(木)	17:00～ 18:45	サービスラーニング事業 いいね！庄内！-地域をさらにオモシロく-	ファカルティ	35
14	12月9日(金)	18:00～ 19:00	教養講座共創カフェ 児童虐待防止について考えよう	中研修室3	8
15	12月5日(木)	18:30～ 20:00	公益教養プログラム FORUM21 マーケティングとビジネスマッチングから見た 地域産業の活性化	中研修室2 オンライン	23
16	12月23日(金)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2206 今からはじめるOpenCV	オンライン	3

No.	開催日	時間	タイトル名・テーマ等	会場	人数
17	2月1日(水)	13:30～ 16:00	学生と酒田市内 IT 関連企業交流会	104 教室	24
18	2月11日(土)	13:30～ 15:00	公益教養プログラム FORUM21 報道カメラマンの仕事からみる NHK	中研修室 1	39
19	2月17日(金)	15:00～ 17:00	地域連携シンポジウム シリーズ第 1 弾 第 1 回 庄内地域のこれからと再生可能エネルギーの役割	公益ホール	550
20	2月28日(火)	19:00～ 21:00	SAKATA Tech Night #2207 Let's Encrypt で Let's Encrypt !	オンライン	4

ヒアリング及びマッチング事業

事業名	ヒアリング及びマッチング事業	
目的	ヒアリングシートを用いて地域からのニーズを把握し、学内のシーズとの調整を行う。マッチングが成立する各種事業、活動については必要に応じて地域共創センター職員及び運営委員が実施協力を行う。	
	ヒアリング内容	依頼・相談者
1	「しょうないビギナーズ」ガイドブック制作依頼	NHK 山形放送局
2	「山をきれいにしてウォーキング」の参加募集について	酒田市農林水産課
3	「酒田獅子舞振興会」の参加募集について	酒田獅子舞振興会
4	「ウクライナの人たちを救おう」チャリティーヨガイベントの周知について	Yoga Samgha (ヨーガ サンガ)
5	一般社団法人 KIP 知日派国際人育成プログラム地域研修（山形研修）について	酒田市地域創生部交流観光課
6	「酒田市廃棄物減量等推進審議会」の委員について	酒田市企画部企画調整課
7	大学生サイバーパトローラー募集について	山形県警察本部 サイバー犯罪対策課
8	カヌー研修海岸清掃ボランティア募集のお知らせ	海浜自然の家 庄内アソビバプロジェクト
9	酒田まつり山車行列への参加について	酒田市地域創生部交流観光課
10	山形県 学生環境ボランティアの募集について	山形県環境エネルギー部 NPO 法人環境ネットやまがた
11	令和4年度 庄内地域創生懇談会の出席学生推薦について	山形県庄内総合支庁 総務企画部 総務課
12	ミライニ・イブニング・コンサートについて	ミライニ・イブニング・コンサート準備委員会
13	酒田市総合計画に関する学生との意見交換について	酒田市企画部企画調整課
14	酒田花火大会実行委員の追加募集について	酒田花火大会実行委員会
15	マイナンバーカードの出張申請会について	酒田市市民部市民課
16	最上川河口クリーン作戦実施について	酒田小さな親切の会
17	十坂小学校での学習ボランティアについて	酒田市立十坂小学校
18	「光ヶ丘松林整備ボランティア」募集について	山形県庄内総合支庁 産業経済部 森林整備課
19	じろで庄内 ボランティアスタッフの募集について	じろで庄内実行委員
20	総合的な学習の講師のお願い	酒田市立鳥海八幡中学校

	ヒアリング内容	依頼・相談者
21	生涯学習施設 里仁館より「親子わくわくサタデーボランティア募集」について	酒田市ボランティア・公益活動センター
22	「山形の海洋ごみを考える日」参加者募集について	美しい山形・最上川フォーラム
23	「庄内満喫デジタルスタンプラリー」について	山形県庄内総合支庁 産業経済部 地域産業経済課
24	「環境やまがた大賞」への推薦について	山形県庄内総合支庁 保健福祉環境部 環境課
25	ハタラクカタチに携わった卒業生の情報提供について	株式会社マイナビ
26	夏のボランティア体験 2022 について	酒田市ボランティア・公益活動センター
27	「やまがた減災ジュニアリーダー育成デイトリップ」のボランティアについて（学生派遣）	市民団体 ヤマガタ防災・減災 Action
28	「2022 こども大学（楽）」ボランティア募集について	NPO 法人 明日のたね
29	酒田の紹介 in English 動画コンテストの開催について	酒田市地域創生部交流観光課
30	大学生向け「食」体験事業の参加者募集について	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課
31	若年女性県内就職・定着促進協議会の学生委員の推薦について	山形県 産業労働部雇用・産業人材育成課 働く女性サポート室
32	令和4年度「地元定着」に関する大学生の意向調査への協力依頼	山形県庄内総合支庁 総務企画部 総務課
33	「未来かがやくやまがた景観賞」作品応募への協力依頼	山形県庄内総合支庁 総務企画部 総務課
34	赤川花火大会ボランティアスタッフの募集について	赤川花火大会実行委員会
35	「やまがた環境展」の出展募集について	山形県環境エネルギー部 循環型社会推進課
36	酒井家庄内入部 400 年記念式典のボランティアスタッフ募集	鶴岡市政策企画課
37	酒田花火ショーボランティアの募集について	酒田市地域創生部交流観光課
38	酒田小さな親切の会 2022 クリーン作戦実施について	酒田小さな親切の会
39	鶴岡市内の保育園等での「運動あそび」事業のボランティア募集について(8/22)	特定非営利活動法人やまごや
40	鶴岡市内の保育園等での「運動あそび」事業のボランティア募集について(9/12、10/18)	特定非営利活動法人やまごや
41	「学生がつくる山形の着地型旅行プランコンテスト」の応募周知について	一般社団法人全国旅行業協会 山形フォーラム 本部実行委員会事務局

	ヒアリング内容	依頼・相談者
42	ボランティア2種（発達障害児の託児、鶴岡環境フェア）の募集について	社会福祉法人 鶴岡市社会福祉協議会
43	第1回「インターナショナル・座談会」の周知について	酒田市地域創生部交流観光課
44	「福祉×農業×手づくり こしゃたなマルシェ」について	山形県庄内総合支庁 地域保健福祉課
45	カーボンニュートラル実現に向けた条例策定検討委員会の学生委員の推薦について	山形県環境エネルギー部 環境企画課
46	酒田市の魅力発信動画作成について	酒田市地域創生部商工港湾課
47	大学生向け「食」体験事業（10/30）の参加者募集について	山形県庄内総合支庁 産業経済部 地域産業経済課
48	女性消防吏員採用促進PR動画へのエキストラ出演について	酒田地区広域行政組合消防本部 総務警防課
49	「サウンドテーブルテニスイベントの開催」について	酒田市ボランティア・公益活動センター
50	第23回「砂防林を育てよう！」参加者募集について	山形県庄内総合支庁 産業経済部 森林整備課
51	酒田東ロータリークラブのクリスマス会について	酒田東ロータリークラブ
52	山形県広報誌「県民のあゆみ」の取材について	山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課
53	サウンドテーブルテニス体験交流会について	酒田市健康福祉部 高齢者支援課
54	「観光に関する勉強会」の周知について	株式会社日本旅行
55	大学生向け「食」体験事業（11/26）の参加者募集について	山形県庄内総合支庁 産業経済部 地域産業経済課
56	ミライニ・イブニングミニ・コンサート の実行委員ボランティアの募集について	ミライニ・イブニングミニ・コンサート実行委員会
57	2022新酒 オードヴィヌーボーのラベルデザインについて	株式会社 オードヴィ庄内
58	ヤマガタユースサミットの周知について	株式会社山形新聞社
59	輸出物流ルートに関する共同研究について	株式会社 オードヴィ庄内
60	第2回「インターナショナル・座談会」について	酒田市地域創生部交流観光課
61	Liga 食品ロス削減チームの山形県消費生活サポーターへの団体登録について	山形県防災くらし安心部 消費生活・地域安全課
62	日向ささえあい除雪ボランティアについて	酒田市ボランティア・公益活動センター
63	酒田市やさしいまちづくり除雪援助事業「除雪ボランティア」の募集について	酒田市健康福祉部 高齢者支援課
64	第3回「インターナショナル・座談会」について	酒田市地域創生部交流観光課

	ヒアリング内容	依頼・相談者
65	羽越本線高速化シンポジウムでの学生意見発表について	庄内開発協議会 酒田市企画調整課
66	児童虐待防止についての共同研究について	静岡福祉大学 子ども学科 灰谷和代 准教授
67	サウンドテーブルテニス体験交流会について	酒田市健康福祉部 高齢者支援課
68	「しゃべりば×学校給食」のイベント周知について	鶴岡市企画部政策企画課
69	「第8回 しりあう・つながる・何か生まれる！！かもしれない！？交流会」のお知らせ	酒田市ボランティア・公益 活動センター
70	第4回「インターナショナル・座談会」について	酒田市地域創生部交流観光課
71	酒田まつり 宵祭り運営のスタッフ募集について	酒田まつり実行委員会
72	酒田まつり 神輿の担ぎ手の募集について	酒田山王祭日枝神社神輿渡 御奉仕 獅の会
73	山形県環境審議会委員の公募について	山形県 環境エネルギー部 環境企画課
74	外航クルーズ船酒田港寄港に係る歓迎イベントへの協力について	山形県庄内総合支庁 産業経済部地域産業経済課 観光振興室
75	「あそぶ！まねぶ！令和4年度春休みこども大学（楽）」ボランティアのご案内について	NPO 法人明日のたね

公益教養プログラム FORUM21

事業名		公開講座公益教養プログラム FORUM21		
目的		課外の教養講座として実施しているもので、学内外の講師による幅広いテーマのプログラムを公開講座として開催する。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	講師・報告者	役職・職名
1	5月18日 (水) 13:10~14:55	人道危機・アフガン問題 -中村哲という生き方-	両角 晃一	元株式会社テレビ朝日 常務取締役
2	7月23日 (土) 11:00~12:00	トビシマカンゾウとニコウスゲ -DNA解析でわかった2種の関係-	笹沼 恒男 玉川 加奈	山形大学准教授 山形大学修士2年
3	7月23日 (土) 13:30~16:45	飛島クリーンアップ作戦2020 記念フォーラム 鳥海山・飛島ジオパーク環境保全フォーラム	大谷 明 野邊 一寛 ほか7名	NPO 法人パートナーシ ップオフィス 環境省 ほか
4	10月27日 (木) 12:30~13:05	2022年度長期語学留学報告会 -カナダ(リジャイナ大学)-	鍋倉 毬恵	本学3年 国際教養コース
5	12月15日 (木) 18:30~20:00	マーケティングとビジネスマッチングから見た 地域産業の活性化	広崎 心	本学准教授
6	2月11日 (土) 13:30~15:00	報道カメラマンの仕事からみるNHK	宗石 岳弥	NHK 山形放送局 コンテンツセンター

FORUM21 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	人道危機・アフガン問題 –中村哲という生き方–		
開催日時	令和4年 5月 18日(水) 13:10 ~ 14:55		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
目的	本学の講義である「メディアと社会」を市民の方にも公開し、FORUM21として開催した。マスメディアについて著名な講師をお招きし、講演していただいた。		
内容	アフガニスタンをめぐる紛争の歴史を学ぶとともに、暴力の連鎖では絶対に平和は築けないということを体現し、人道支援に命をかけたひとりの日本人医師である中村哲さんの「生き方」についても考えていきます。		
講師	所属・職名	元株式会社テレビ朝日 常務取締役	
	氏名	両角 晃一 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	53名		
感想	<p>時事問題特講の受講学生と、一般参加者の合計で52名の方に参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「アフガニスタンの背景が理解できて良かった。“自分の足で立ち上げるための支援が本当の先進国の支援”という言葉が心に響いた。」「“平和とはあるものではなく持っていくものだ”という強いメッセージを伝えることと、受け取る我々日本人が“日本国として何ができるのか?”を常に問うことの必要性を危機的に感じた。」など多くの意見や感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	新名 阿津子
事業名	トビシマカンゾウとニッコウスゲ ～DNA 解析でわかった 2 種の関係～		
開催日時	令和 4 年 7 月 23 日(土) 11:00 ～ 12:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室 1		
目的	飛島の環境保全について植物、クリーンアップ作戦、ジオパークの 3 つの観点から議論することを目的としたフォーラムが開催された。		
内容	本事業は鳥海山飛島ジオパークの研究助成事業に採択されたトビシマカンゾウに関する調査報告会（ジオ学講座）、飛島クリーンアップ作戦 2020 記念フォーラム、鳥海山・飛島ジオパーク環境保全フォーラムの 3 つの講座を同日開催したものである。		
講師	山形大学 准教授 笹沼 恒男 氏		
	山形大学 修士 2 年 玉川 加奈 氏		
主催	鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会		
協力団体	東北公益文科大学・NPO 法人パートナーシップオフィスほか		
参加人数	40 名		
感想	<p>午前で開催されたジオ学講座「トビシマカンゾウとニッコウキスゲ～DNA 解析でわかった 2 種の関係～」では、トビシマカンゾウがニッコウキスゲやエゾゼンテイカと同種でかつ種内の変種であることが報告された。会場にはジオガイドの参加も多く、この学術的な研究成果が今後のガイド活動で生かされることに期待が持てる。</p> <p>午後の飛島クリーンアップ作戦 2020 記念フォーラムでは、これまでの成果を振り返り、環境保全フォーラムでは隠岐におけるジオパーク活動の展開について学び、今後の離島におけるジオパークを活用した地域振興についてパネルディスカッションが行われた。会場からは公益大生からのコメントや質問も出された。参加者からは「大変勉強になった」「ジオパークの活動を展開する参考になった」「これからのガイド活動に活かしていけそうだ」といった感想が聞かれた。今後も、このような学習機会を創出していくことが望まれよう。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	呉 尚浩
事業名	飛島クリーンアップ作戦 2020 記念フォーラム 鳥海山・飛島ジオパーク環境保全フォーラム「地球に寄り添うジオパーク活動の必要性～地域から世界的な活動へ～」		
開催日時	令和4年 7月 23日(土) 13:30～16:45		
会場	酒田市公益研修センター 公益ホール		
目的	飛島クリーンアップ作戦 20周年を記念して、その20年間の活動の歩みと成果を振り返りながら、菅原久義氏（環境省）をお招きし、我が国における今後のプラスチックごみ対策のビジョンを紹介していただいた。そして世界ジオパークに認定され、かつジオパーク活動と海ごみ問題を連携させた活発な活動を行っている隠岐ジオパークより野邊一寛氏をお招きし、鳥海山・飛島ジオパークの今後の可能性や、他地域から見た飛島クリーンアップ作戦の意義と評価について講演いただいた。また、関係者によるパネルディスカッションを行った。		
内容/講師	<p>[第1部] 飛島クリーンアップ作戦 2020 記念フォーラム「20年にわたる活動経緯とその成果」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 報告・基調講演/大谷明氏（NPO 法人パートナーシップオフィス）、菅原久義氏（環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室主査）、呉尚浩氏（公益大教授・とびしま未来研究所）、樋口恵佳氏（公益大准教授・とびしま未来研究所） <p>[第2部] 鳥海山・飛島ジオパーク環境保全フォーラム「地球に寄り添うジオパーク活動の必要性～地域から世界的な活動へ～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 基調講演/野邊一寛氏（隠岐ジオパーク推進機構事務局長） ■ パネルディスカッション <p>コーディネーター 岸本誠司氏（東北工業大学 教授）</p> <p>パネリスト 大野希一氏（鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会事務局次長兼主任研究員）、小野寺流菜氏（NPO 法人国際ボランティア学生協会・IVUSA 山形酒田クラブ・公益大4年）、松本友哉氏（合同会社とびしま共同代表）</p>		
主催	飛島クリーンアップ作戦 2020 記念フォーラム実行委員会		
協力団体	一般社団法人鳥海山・飛島ジオパーク推進協議会/藻場再生研究クラブ/地域共創センター/本学とびしま未来研究所/海上保安庁酒田海上保安部/合同会社とびしま/山形放送/山形県庄内総合支庁/酒田市/NPO 法人美しい庄内/NPO 法人パートナーシップオフィスなど		
参加人数	100名		
感想	午前のイベントに引き続き、県内の海ごみ対策に取り組む関係者が一堂に会した。ここでは、20年の歩みを振り返り、山形の取り組みが2009年の海岸漂着物処理推進法の制定に影響を与えたことなどの成果の評価から、最近の飛島をフィールドとした海ごみロボットの開発などの先進的な取り組みなどを紹介。また、環境省の菅原氏より、現在では、海ごみ問題の発生抑制としてのプラスチック・スマート政策が積極的に推進されていることをお話しいただいた。隠岐ジオパークにおいては、海ごみ問題にも積極的に取り組んでおり、鳥海山・飛島ジオパークの関係者が、今後の海ごみ対策の新しい担い手となる可能性も議論された。パネルディスカッションでは、山形県における海ごみ問題に対する取り組みやジオパークの推進において、今までの振り返りに加えて、今後の発展のために全国的な知見を得る場となった。		

FORUM2 1 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	2022 年度長期語学留学報告会 -カナダ (リジャイナ大学) -		
開催日時	令和4年 10月 27日(木) 12:30 ~ 13:05		
会場	ファカルティ (新世紀館3階)		
目的	留学をしたことでどのような変化、経験を得られたかを話してもらうことで、留学についてイメージを広げ、多くの学生が留学を前向きに考えるようになる。		
内容	カナダ (リジャイナ大学) に留学した鍋倉さんの留学先での大学、普段の過ごし方などお話しいただく。(なぜ留学に行こうと思ったのか、きっかけから留学後の変化など)		
報告者	所属・職名	国際教養コース 3年	
	氏名	鍋倉 毬恵さん	
主催	教務学生課		
協力団体			
参加人数	14名		
感想	<p>留学を考えている学生を中心に学生10名、教職員4名が参加した。</p> <p>参加者アンケートでは、「留学は自国の文化だけでなく、他国の文化も肌で感じる事ができ、自分の視野を広げることができると思った。」「留学にはお金がかかるがそれ以上に自分の経験として一生の財産になるものだと感じた。」「“完璧を求めなくていい” という鍋倉さんの言葉に勇気づけられた。」など、留学を考える学生にとってこれから一步踏み出すいい機会になったと感じた。</p>		

FORUM21 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	マーケティングとビジネスマッチングから見た地域産業の活性化		
開催日時	令和4年 12月 15日(木) 18:30 ~ 20:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室2		
目的	昨年度に着任され、同年度のベストティーチャーに選出された広崎心准教授より、地域の方に本学教員のシーズを発信することを目的に、専門分野である「マーケティング・商品開発」についてお話しいただいた。		
内容	広崎心准教授は長年、企業でマーケティングやライセンス業務に従事し、現在は産業支援財団による地域企業の最適な海外進出支援策について研究。 今回は、庄内地域で求められる産業活性化のための取り組みについて考える。		
講師	所属・職名	東北公益文科大学 准教授	
	氏名	広崎 心 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	23名		
感想	<p>学生、教職員以外にも多くの参加者を得て、オンライン受講者9名、対面受講14名の合計23名からご参加いただいた。また、オンライン開催ということもあり、庄内地域に在住の方だけでなく、県外の方にもご参加いただくことができた。</p> <p>参加者アンケートでは、「マーケティング等今まで何となくわかっているような、いないようなことについて教えていただいた。また庄内地域として企業・大学がどうしたらよいかということも非常に心に刺さった。」「私も庄内と由利本荘、にかほ地域、新潟下越地方との連携が重要と考えており、終始聞きっぱなしのお話だった。ベストティーチャー賞を受賞するのも納得の90分。また広崎先生のお話の機会がありましたら、同僚にも聞かせたいと思った。」など多くの意見や感想が寄せられた。</p>		

FORUM 2 1 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	報道カメラマンの仕事からみる NHK		
開催日時	令和5年 2月 11日(土) 13:30 ~ 15:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室1		
目的	8K カメラでの撮影からヘリコプター取材まで、報道カメラマンの仕事を通じて、マスメディアの役割について考える。		
内容	<p>宗石氏は、東京オリンピックの開会式で飛行した「ブルーインパルス」を上空からヘリ撮影したほか、天皇即位に関する諸行事ではテレビ全社を代表して皇居内での撮影を行うなどの経歴をお持ちの方。</p> <p>宗石氏がこれまで撮影に携わった出来事や、実際にニュースで放送された映像をもとに、報道カメラマンの仕事についてお話しいただく。</p>		
講師	所属・職名	日本放送協会 山形放送局コンテンツセンター (鶴岡支局)	
	氏名	宗石 岳弥 氏	
主催	東北公益文科大学 地域共創センター		
協力団体			
参加人数	39名		
感想	<p>学生、教職員以外にも参加者を得て、39名からご参加いただいた。また大人だけでなく、小中学生など、幅広い年齢層の方が参加した。</p> <p>参加者アンケートでは、「普段ニュースで見る映像が作り手の視点からどのように撮影されているのか知ることができた。」「カメラマンの仕事が映像を撮ることだけでなく、レポートや編集など多岐に渡ることを知った。」「実際のニュース映像や街並みを映した映像など、様々な場면을撮影して表現する仕事に興味を持った。」など多くの意見や感想が寄せられた。</p>		

教養講座共創カフェ

事業名	教養講座共創カフェ		
目的	小規模で双方向形式の教養講座。学内外の講師や本学学生による幅広いテーマのプログラムを開催する。		
	開催日時	タイトル名・テーマ等	主催者
1	5月30日 (月) 15:00～16:30	新時代！ボードゲームのあり方！ －繋いで広げる人との輪－	地域共創センター
2	12月9日 (金) 18:00～19:00	児童虐待防止について考えよう	地域共創センター

共創カフェ活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	新時代！ボードゲームのあり方！～繋いで広げる人との輪～		
開催日時	令和4年 5月 30日（月） 15：00 ～ 16：30		
会場	103教室		
目的	ボードゲームを通じたコミュニケーション能力の向上を目的に、学生の人材育成を図る。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講師より講演 ボードゲームの特徴、企業等での活用事例、活用することでの効果等お話いただいた。 ・参加者同士での交流 		
講師	所属・職名	ボードゲームカフェ Chez pierre（シェ・ピエール）	
	氏名	ピエール 氏 ガンバリー二杏子 氏	
主催	地域共創センター		
協力団体	アナログゲームサークル		
参加人数	8名		
感想	<p>本学学生合計で8名からご参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「教育・脳トレなど様々な場面でボードゲームが活用されていることを知りとても興味深かった。誰でも楽しめるゲーム形式で学ぶことは、効率が良さそうで記憶にも残りやすいと思った。」「今まで試したことがないゲームもたくさんあって時間があっという間でした。またボードゲームの歴史も知ることができて、飛鳥時代にすごろくがあったという話はとても驚きました。ルールがわからなくても、やっているうちに感覚が掴めてきて楽しかった。」などと多くの意見・感想が寄せられた。</p>		

共創カフェ活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	「児童虐待防止について考えよう」		
開催日時	令和4年 12月 9日(金) 18:00 ~ 19:00		
会場	酒田市公益研修センター 中研修室3		
目的	本学学生の活動を発信するだけでなく、「児童虐待」という問題について改めて考えるきっかけをつくることを目的に開催する。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・オレンジリボンチームの活動紹介 ・オレンジリボンについての説明 ・オレンジリボン運動を通して感じたこと、学生の考え ・参加した方との意見交換 		
報告者	所属・職名	オレンジリボンチーム	
	氏名	奥山舞さん(4年)、小名美晏さん(4年)、増田斐斗さん(2年)	
主催	地域共創センター		
協力団体	オレンジリボンチーム		
参加人数	8名		
感想	<p>本学学生、行政関係、施設関係の方など合計で8名からご参加いただいた。</p> <p>参加者アンケートでは、「行政の方、現場の声を聞くことができ、“児童虐待”という行為を具体的に考えることができた。今までは児童虐待＝親が悪いという考えがあったが、親も苦しい立場だということがわかった」、「意見交換した際の“通報は支援のスタート、ここから支援が始まる”というお話から、虐待通報のイメージが少し変わった。オレンジリボンの活動を通じて、様々な立場の方のお話を見聞できること、とても有難いことと思っている」などと多くの意見・感想が寄せられた。</p>		

学生活動支援

事業名	学生活動支援		
目的	本学学生の意欲的な自主活動を支援することで、本学がめざす「大学まちづくり」のさらなる充実を図る。		
	助成金・補助金	事業の目的	採択件数
1	学生活動支援助成金	大学の活性化を目的とした本学学生による自主活動及び本学学生と地域との協働によるまちづくり活動を支援するため、学生からの具体的な活動に関する申請に対し、選考の上、「学生活動支援助成金」として活動経費の一部の助成をすることとする。	0件
2	災害復興・地域防災活動支援助成金	学生による災害復興・地域防災活動を支援するため、災害復興・地域防災に関する活動（被災地・避難者支援、地域防災活動など）に関する申請に対し、選考の上「災害復興・地域防災活動支援助成金」として活動経費の一部を助成することとする。	0件
3	まちづくりインターンシップ補助金	学生の街づくり活動及び学生の自主活動を支援するため、街づくりに関する活動（インターンシップ・事例発表・研修活動など）で申請のあった学生について、「まちづくりインターンシップ補助金」として活動経費の一部を助成することとする。	3件

【まちづくりインターンシップ補助金採択一覧】

No.	申請日	団体	活動実施代表	活動内容	支出額
1	8月23日	IVUSA 山形酒田クラブ	4年渡邊海飛	山形県日本海沿岸清掃活動	134,000円
2	10月14日	Liga 食品ロス削減チーム	3年阿部武宣	やまがた環境展への出展	32,261円
3	2月20日	IVUSA 山形酒田クラブ	3年三ヶ田珠美子	山形県日本海沿岸清掃活動	42,600円

活動実施グループ名：IVUSA山形酒田支部

1. 活動の名称	海浜自然の家 金峰自然の家
2. 実施期間	令和 4年 8月 23日 から 令和 4年 8月 27日まで
3. 具体的な活動内容	<p>①知識を知る NPO法人パートナーシップオフィスさんやから、海ゴミの回収方法、危険物の取り扱い方、なぜ海ゴミを回収する必要があるのか等々、活動が始まる前に知識面をインプットすることで、活動に主体的に取り組める環境を作る。</p> <p>②学生同士の交流 星空観測(晴天時)やアイスブレイクとしてフォトコンテストを班ごとに実施する。学生同士が交流を深めることにより継続的に問題に取り組める関係性を作る。</p> <p>③鳥崎海岸と釜磯海岸の清掃 初日は釜磯海岸の清掃、鳥崎海岸の清掃を行う。特に釜磯海岸の湧水は鳥海山・飛島ジオパークにも認定される海岸であるのに、清掃が行われていない現状がある。参加者には現場で何を感じたか、自分はどうするべきかを、活動後のミーティングで班ごと話し合う。</p>
4. 活動の成果	<p>私が今回の活動を通して得たものは大きく分けて3つあります。</p> <p>①海洋漂着物の現状について等の知識 ②事前準備の重要性 ③新しい仲間との関係</p> <p>①は大阪商業大学の原田様から講話いただき、マイクロプラスチックより小さいナノプラスチックの出現によって、人体への影響が加速するということを学びました。また清掃活動を通し、情報と現場で乖離している部分がないか、すり合わせができたことが大きかったと感じる。情報+経験=生きる知識として昇華することができた。</p> <p>②は活動を行うにあたって、リスクの洗い出しや対応といった部分を想定しておくことができたため、当日に冷静に対応することができた。その半面、想定から漏れていた部分の対応には不安が残ってしまった。より事前からの準備の重要性を感じる事ができた。</p> <p>③活動を通して、社会問題に立ち向かう仲間たちと出会うことができた。今後は互いに協力関係を大事にしつつ、ともに取り組む仲間の輪を広げること注力していきたいと考えた。</p> <p>地域の抱える問題は地域で解決することを目標に、このような活動を継続、新規巻き込みを図りたい。同時に、海洋ゴミ問題以外の社会問題に対しても、私たちの日常から見直し、一人からできることをより多くの人が行動として習慣化できるよう取り組みを行っていきたい。</p>

活動実施グループ名：Liga食品ロス削減チーム

1. 活動の名称	やまがた環境展への出展
2. 実施期間	令和4年 10月 14日 から 令和4年 10月 16日まで
3. 具体的な活動内容	<p>10月15日、16日にやまがたビックウィングにて開催された「やまがた環境展」へ参加した。イベントでは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Liga食品ロス削減チームについて説明 2. 10/22に開催するサルベージクッキング（食品ロスになりがちな食品を用いた料理教室）のポスター掲示 3. 12月に行うフードパントリー（食品配布による食品ロス削減活動）のポスター掲示 4. 団体パンフレットの設置 5. 賞味期限に関するアンケート調査 <p>〈アンケートについて〉 対 象：小さなお子様がいる家庭 期 間：10月15日、16日 11:00～16:00 調査方法：ホワイトボードと丸シールを用意し、合う選択肢のエリアにシールを貼り、シールの数で集計する。 質問項目： ①ご家庭にある食品で賞味期限が過ぎてしまうことはありますか？ ②賞味期限が過ぎてしまった食品はそのまま捨ててしまいますか？</p>
4. 活動の成果	<p>サークルを設立してから約2年が経過し、これまでは主に庄内地域を中心に食品ロス削減のための啓発活動やフードパントリーなどを行ってきた。今回初めて内陸の方でLigaの活動を多くの人に知ってもらう機会となった。来場者の方々と食品ロスについての会話をしていると各家庭ごとに食品ロスへの対策や意識には多くの違いがあったように見受けられた。そして、食品ロスになりがちな食品については、どの家庭もある程度共通している部分があると感じた。</p> <p>賞味期限についてのアンケート結果 回答数:84 「家庭にある食品で賞味期限を過ぎてしまうことがあるか？」 →「過ぎてしまう」と回答した人が大半であった。 「賞味期限が過ぎてしまった食品は捨ててしまうか？」 →「いいえ」（自己判断で食べる）と回答した人が大半であった。</p> <p>以上の結果から、どの家庭でも賞味期限が過ぎてしまうことは日常的に発生しているが、においや色などを判断して、場合によっては「食べる」という家庭が多いとわかった。</p>

活動実施グループ: IVUSA山形酒田支部

1. 活動の名称	山形県日本海沿岸清掃活動（油戸海岸、由良海岸、湯野浜海岸）
2. 実施期間	令和5年 3月 8日 から 令和5年 3月 10日まで
3. インターンシップの具体的な内容	<p>◎3月8日 油戸海岸 清掃 結団式顔合わせ交流会 班ミーティング</p> <p>◎3月9日 由良海岸 清掃 芋煮会 海ごみアート(拾ったプラスチックを海の生き物の型紙に貼りつける) 地域の方々と海ごみについて話し合う 班ミーティング</p> <p>◎3月10日 湯野浜海岸 清掃 海ごみディベート「プラスチックは善か悪か」 班ミーティング</p>
4. 活動の成果	<p>今回の活動を通して得たことは3つあります。</p> <p>1つ目は海ごみ問題の現状です。これは清掃前の海岸を見て、企業の方からの講話を聞いたときに学びました。粗大ごみや漁網などの目に見えるごみはもちろんですが、マイクロプラスチックよりさらに小さいナノプラスチックの存在を知りました。</p> <p>2つ目は行動に移すことの大切さです。海ごみ問題は考えるだけなら簡単な話ですが、行動に移さなければ問題の解決には繋がらないと思いました。ごみを拾ったり、ごみ拾いについて呼び掛けるなど行動を起こすことで初めて問題解決に繋がると思います。私はこの活動期間中、強く痛感させられました。活動が終わってもごみ拾い活動について呼びかけをしたいと思います。</p> <p>3つ目は多くの人との関係です。特に同じグループや班の人とはかなり協力しました。この活動を通して、仲の良い友人が増えただけでなく、ともに環境問題を考える仲間ができました。今後もこの出会いを大切にして、関係を広げていきたいと思います。</p>

サービスラーニング支援事業

事業名	サービスラーニング支援事業			
目的	ボランティア活動、地域課題解決等に取り組む学生を対象とした研修会を開催。学生の自発的活動、地域貢献活動の支援を行なう。			
	開催日	タイトル名・テーマ等	講師	役職・職名
1	6月10日 (金) 15:15~16:45	マナーとおもてなしで もっとオモシロイ庄内に！	切江 沙也加 佐藤 菜々子 坂本 里帆 九鬼 江実	ANA SHONAI Blue Ambassador
2	12月8日 (木) 17:00~18:45	いいね！庄内！ ー地域をさらにオモシロくー	切江 沙也加 西 紅映 九鬼 江実	ANA SHONAI Blue Ambassador

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	マナーとおもてなしでもっとオモシロイ庄内に！		
開催日時	令和4年 6月 10日(金) 15:15 ~ 16:45		
会場	104教室		
目的	ANAの客室乗務員5名が庄内に移住し、「ANA SHONAI BLUE Ambassador」として、乗務を続けながら庄内の地域創生に取り組んでいる。本学学生向けの講座を通して、学生のスキルアップ、意識高揚を図る。		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ① ANA SHONAI BLUE Ambassador、ANA グループ、ANACA の紹介 ② マナーとは？ ③ おもてなしとは？ ④ マナーを身につけ、おもてなしの心を育てる ⑤ 質疑応答 <p>ルールとマナーの違いや、サービスとおもてなしの違いについて教えていただく。</p>		
講師	所属・職名	ANA SHONAI BLUE Ambassador	
	氏名	切江沙也香 氏、佐藤菜々子 氏、坂本里帆 氏、九鬼江実 氏 ANA 庄内支店 前田支店長、原マネージャー	
主催	地域共創センター		
協力団体			
参加人数	25名		
感想	<p>学生19名、教職員6名の合計25名が参加した。参加した学生からは、「おもてなしには、マナーやルールのように決まった形はないので、相手を思いやる心から自分で作っていけるものだ」と学んだ」、「観光やサービス業に興味があり将来の目標としているので、おもてなしとサービスの違いやマナーとルールの違いなど、人と接するうえで大切なことを知ることができた」、「CAの方々は意識をしなくても、普段から相手を思いやる心を持ち、様々な問題に対してもチームワークを発揮して解決しており素晴らしいと思った」などの意見や感想をいただいた。</p> <p>また質疑応答ではGoogle フォームを使用しており、学生からの質問が29件も寄せられるなど、学生が気軽に質問できるシステムは今後のイベントでも参考にしたいと思った。</p>		

サービスラーニング支援事業 活動報告書		担当者	進藤 悠子
事業名	いいね！庄内！～地域をさらにオモシロく～		
開催日時	令和4年 12月 8日(木) 17:00 ～ 18:45		
会場	ファカルティ		
目的	<p>本学の学生は、ゼミやサークル活動などで地域の方と様々な関わりを持ちながら活動を行っている。</p> <p>特に観光まちづくりコースや酒田おもてなし隊に所属する学生は、地域との関わりは深く、日々様々な活動を地域で行い、情報発信を行っている。</p> <p>そこで昨年より庄内に移住した ANA の客室乗務員の方を講師にお招きし、移住者から見た庄内の魅力や情報発信のコツなどをお話いただくことで、新たな地域の魅力発見と学習意欲に繋げることを目的に講座を企画した。</p>		
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ANA SHONAI BLUE Ambassador の活動 ・庄内の「いいね！」 ・「いいね！」をつないで地域をさらにおもしろく ・SDGs 時代の地域創生 ・質疑応答 <p>昨年の12月に庄内に移住した ANA の現役客室乗務員 (ANA SHONAI BLUE Ambassador) より、庄内の魅力 (いいね!) や Ambassador の取り組みについて教えていただき、参加した学生と地域をさらにオモシロくしていくにはどうしたらいいか意見交換を行う。</p>		
講師	所属・職名	ANA SHONAI BLUE Ambassador	
	氏名	切江沙也加 氏、西紅映 氏、九鬼江実 氏	
主催	地域共創センター		
協力団体	観光・まちづくりコース		
参加人数	35名		
感想	<p>観光・まちづくりコースの学生・教職員を中心に合計35名からご参加いただいた。</p> <p>参加した学生からは、「“地域の方と一緒に商品開発をする”というだけでなく、“商品からその地域を感じていただけるようなものにする”という想いを込めて行っていることも素晴らしいと感じた」、「Ambassador のみなさんがとてもいきいきと活動していることが魅力的だと感じた。「私の好きを好きになってほしい」というように、まずは自分達はその場を楽しむ、魅力的に感じる部分を発見するということを大切にしているからこそ、自信を持って発信できているのではないかと感じた」など多くの意見や感想をいただいた。</p>		

地方創生に向けた人材育成事業
「ハタラクカタチ」

事業名	地方創生に向けた人材育成事業 「ハタラクカタチ」プロジェクト
目的	学生が庄内地域の企業を訪問、取材をし、若者ならではの視点で地元企業の魅力や地域で働く方のライフスタイルを発信した。令和4年度は、8社を訪問し、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内地域企業見学バスツアー」にも参加し、冊子「ハタラクカタチ Vol.4」を発行した。本学学生だけでなく、地元高校・近隣大学、商工会議所等へ配付・設置を依頼した。
内容	①「ハタラクカタチ」プロジェクトの組織化 ②プロジェクトメンバーによる勉強会の開催、情報収集・ヒアリング等による企業研究 ③企業への説明・協力依頼 ④企業への取材 ⑤取材企業の冊子作成、若者を中心とした市民への発信 ⑥報告書の作成、発信活動
プロジェクトメンバー	4年：池田詩穂 3年：小林龍永、伊藤美羽、佐々木美里、鈴木遥、三ヶ田珠美子、 関明日香、橘愛海、長谷川琴音 2年：小野寺緋彩、柿崎百花、佐藤真純 1年：石澤日和、張間千桜
取材先企業	<p>【取材先企業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 平田牧場 ・株式会社 荘内銀行 ・社会福祉法人恵泉会 小規模特別養護老人ホームともえ ・クリーンサービス株式会社 ・株式会社 出羽自動車教習所 ・株式会社コミュニティ新聞社 ・まるい食品株式会社 ・株式会社三洋 <p>【庄内地域企業見学バスツアー】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊佐町総合交流施設 株式会社 鳥海温泉遊楽里 ・株式会社メカニック ・株式会社安藤組 ・株式会社ウエノ（三川工場） <p style="text-align: right;">（順不同）</p>
冊子	発行部数：4,500部



受託事業・補助事業の報告

地域共創センターが関わる令和4年度受託事業・補助事業について、報告します。

■受託事業

事業名	地域デジタル人材等育成事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市
実施期間	令和4年4月1日～令和5年2月28日
契約金額	9,700,000円
概要	<p>本学の高度な情報技術を活かした各種講座、研究を通じ、地域で活躍できるデジタル人材育成をするとともに、若者の地元定住を促進することを目的とし、令和2年度より受託している。</p> <p>4つの履修証明プログラム（「データサイエンスにかかる講座」、「ビッグデータ解析・活用等にかかる講座」、「ドローン活用等を含む空間情報処理に関する講座」、「情報セキュリティに関する講座」）の開講、「ITに関する技術やアイデア、課題、疑問などを共有、解決するための誰もが参加できるイベントの開催」、「公益大メディア情報コース学生と市内IT関連企業、プログラマー等との交流事業」、「地元高校情報科生徒が公益大メディア情報コースを体験するプログラム」、「公益大がITを活用した地図コンテンツ作成」、「大学・高校連携コーディネート業務」の9事業を展開した。</p>

事業名	ボランティアコーディネーション力3級検定業務
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	酒田市社会福祉協議会（酒田市ボランティア・公益活動センター）
実施期間	令和4年6月30日～令和5年3月31日
契約金額	300,000円
概要	<p>平成27年度より「地域共創コーディネーター養成プログラム」の「コーディネーション研修」として認定特定非営利活動法人日本ボランティアコーディネーター協会共催の「ボランティアコーディネーション力3級検定」を開講している。</p> <p>令和4年度も酒田市社会福祉協議会より「ボランティアコーディネーション力3級検定業務」を受託した。チラシ配布、新聞記事、酒田市社会福祉協議会広報誌、大学ホームページへの記事掲載等の方法で一般参加者を募集した結果、申込者は31名であった。検定受験者は27名（4名欠席）、検定合格者は17名であった。</p>

■補助事業

事業名	令和4年度 公益のふるさとづくり活動補助金 「地域共創による公益のふるさとづくり推進」事業
受託者	東北公益文科大学（地域共創センター）
委託者	庄内開発協議会
実施期間	令和4年6月1日～令和5年3月31日
契約金額	850,000円
事業目的 及び概要	<p>東北公益文科大学では開学以来、学生と教職員が地域をフィールドに研究、教育と地域貢献活動を実施してきた。その中で、地域共創センターは、地域と大学を結ぶ窓口として、また、地域と大学の連携活動の活動拠点としての役割を果たしている。</p> <p>令和4年度公益のふるさとづくり活動補助事業では、地域創生に向けた人材育成事業を継続するとともに、これまで同様に本学の地域との協働・共創活動を実践している各事業を支援することにより、本学の地域共創における公益のふるさとづくり活動がさらに進展するよう取り組んだ。令和4年度もコロナ禍において学内外での活動がしづらい状況であったが、その中でできることを模索しながら活動し、「地域創生に向けた人材育成事業」「FORUM21 実施事業」「共創カフェ事業」「学生活動支援助成金、まちづくりインターンシップ旅費補助金、災害復興・地域防災活動支援助成金」「サービ斯拉ーニング支援事業」「学生および大学の地域活動等に関する発信事業」「地域連携拠点事業」を実施した。また、新規事業として、「地域連携シンポジウム」を実施した。</p> <p>「地域創生に向けた人材育成事業」については、本学学生で組織する「ハタラクカタチプロジェクト」のメンバーが、若者の視点で庄内地域の企業の魅力や庄内で働くことの魅力を伝えることを目的に8社（うち1社は社長）へインタビュー取材を行い、庄内地区商工会広域連携協議会による「庄内企業見学バスツアー」（4社）にも参加し、冊子にまとめた。</p> <p>「公益教養プログラム FORUM21」は教員の企画・運営により6回開催、「共創カフェ」も2回開催した。</p>

発行物のご案内

地域共創センターが令和4年度に発行したパンフレットや冊子を紹介します。

	発行物	内容	作成担当
1	地域共創センターリーフレット	地域共創センターの事業紹介	地域共創センター 事務室
			
2	冊子 ハタラクカタチ Vol.4	庄内地域企業の魅力紹介	ハタラクカタチ プロジェクト
			
3	加'モン（カモン）リーフレット	加茂地区で活動する加'モン紹介	加'モン
			
4	LiNK 自然環境サークル パンフレット	LiNK 自然環境サークルの活動紹介	LiNK 自然環境 サークル
			